

2023.01.12. 木曜礼拝 簡単な方法か大変な方法か

エレミヤ 48 章

JD ファラグ牧師

天のお父さま、私たちはあなたが必要です。私たちはそのような者です。この礼拝の時間に本当に感謝します。主よ、ここで私たちはあなたがどなたであるかを知りあなたに信頼しあなたにすべてを捧げます。心からの感謝をささげます。主よ、神の御言葉を学び、共に過ごす時間を祝福してください。この時間に感謝し、この場所に感謝します。イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。アーメン、アーメン。皆さん、こんばんは。皆さん、今夜はお元気ですか？ 良いですね。(まばらで静かな拍手) 今のは説得力がありましたね。どうもありがとう。ー (笑) ー

オンラインで参加の皆さんも歓迎したいと思います。参加して下さり嬉しいです。エレミヤ書の節ごとの学びを再開できることをとても嬉しく思います。今夜は 1 章だけを取りあげます。もう数週間が経ちますね。47 章を終えてから 3、4 週間だと思います。今夜は 48 章です。すぐにその理由が分かると思います。この章で、主が私たちのために用意されていることが本当に楽しみです。では祈りましょう。私たちの時間を神が祝福してくださるよう求めましょう。よろしければ一緒に。

天のお父さま、本当に、本当にありがとうございます。主よ、これは私たちの週の真ん中、週の終わりに向かう時間と場所であり、私たちは、忙しい日々のストレスをすべて取り除き、脇に置いて、この場所に来ることをとても楽しみにしています。これはあなたと、お互いに共に過ごす時間だからです。今は、主よ、あなたの御言葉の中で共に過ごす時間です。私たちは賛美と礼拝、そして交わりの時間を楽しみました。今度は主よ、あなたの御言葉を聞き、あなたの御言葉に心を開く時です。主よ、私たちは、大きな期待を持ってあなたを見上げます。なぜなら、私たちが今、一緒に歌ったように、私たちはあなたを切実に必要としています。私たちはあなたが必要です、主よ。ですから主よ、あなたのご存知の私たちの必要を満たしてくださいませんか？ あなたは私たちの心をご覧になり、私たちの心の必要を知っておられます。主よ、私たちの心に語ってくださることを祈ります。そうしてくださることに、前もって感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

それでは。この章では再び、私たちが簡単な方法か大変な方法で学ぶかについて、非常に強力な原則を語っています。この章では再び、私たちが簡単な方法か大変な方法で学ぶかについて、非常に強力な原則を語っています。正直なところ、私は、あなたが大変な方法で学んだことから、簡単な方法で学びたいです。正直なところ、私は、あなたが大変な方法で学んだことから、簡単な方法で学びたいです。それはただのわがままじゃないですか？ でも、真実です。私はむしろ、あなたがすることから学びたいのです。そうすれば、私があなたと同じことをして、あなたが大変な方法で学んだことを、大変な方法で学ばなくて良いからです。ここまで大丈夫でしょうか？ 聖書の学びのスタートには最適だと思います。私は皆さんに非常に率直です。また、皆さんが私と同じであることも知っています。皆さんがそれを認めようと認めまいと、自分に正直になれば、これは真実です。しかし、ここで問題なのは、私たちは、結局のところ、大変な方法で学ぶことになります。この章では今夜、愛に満ちた天の父は私たちにこうおっしゃいます。「大変な方法で学ぶ必要はありません。むしろ、簡単な方法で学んで欲しいのです。」この章では、それをある種の生々しきで表現しています。つまり主にとって、ご自分の民が経験しなければならないことをすべて経験しなければならないのは心が痛むことです。しかし、それが必要であるなら、そうなさるのです。

さて、神は預言者エレミヤを通して、モアブへの裁きを預言されます。モアブは、現代ではヨルダンとして知られている地域です。実際にこれはヨルダン南部の地域です。死海でイスラエルと国境を接しています。私たちと一緒にイスラエルに行ったことのある方、この地域はとても美しく、緑豊かで肥沃な地域ですね。そのことも関係してくるでしょう。これはモアブに対する裁きであり、しかも、それを完全に回避することができたということです。これを経験しなくても良かったのです。こうなる必要はありませんでした。これから見るように、最後にモアブはこの章のページから立ち上がり、国家にとってそうであるように、クリスチャンにとってもそうであることを教えています。48章には47節あります。この章は47節だけだったらいのにと切に切に思います。先に読まれている方は、理由が分かりますね。なぜなら、47節には、「モアブは将来回復される」と書かれているからです。しかし、彼らは1節から46節までを通らなければなりません。そのすべてを経験しなければなりません。私たちが読んでいくのも、辛いことです。彼らはこのすべてを経験することになりますが、しかし最後に、神は彼らを回復させられます。もしそれが必要であるなら、そうされるのです。では、準備はいいですか？ 取り掛かりましょう。1節。

—エレミヤ 48:1—

モアブについて。イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「わざわざだ、ネボ。これは荒らされた。キルヤタイムも辱められ、攻め取られた。その砦は辱められ、打ちのめされた。

—エレミヤ 48:2—

もはやモアブの誉れはない。ヘシュボンに、これに悪事を企んでいる。『行って、あの国民を絶ち滅ぼし、無き者にしよう』と。マデメンよ、おまえも黙らされる。剣がおまえの後を追っている。

—エレミヤ 48:3—

ホロナイムから叫び声がする。『暴行だ。大いなる破滅だ』と。

—エレミヤ 48:4—

モアブは打ち破られる。その幼き者たちは叫び声をあげる。

—エレミヤ 48:5—

まことに、ルヒテの坂は嘆きの中にあり、彼らは泣きながら上る。ホロナイムの下り坂では、痛々しい破滅の叫びが聞こえる。

—エレミヤ 48:6—

逃げて、自分自身を救え。荒野の中の灌木のようになれ。

素晴らしいスタートが切れましたね。さて、この章は、モアブの強力で繁栄した都市への深い裁きから始まります。その理由はいくつかあるのですが、そのうちの一つをこれから見ていきたいと思います。

—エレミヤ 48:7—

おまえは自分が作ったものと財宝により頼んだので、…

7節に書かれていないことに注目してください。「自分が作ったものや財宝を持っているからだ」とは書いていません。違います。それらに拠り頼んだからだ。それを覚えておいてください。

…おまえも捕らえられ、ケモシュ（偽の神、偶像）はその祭司や首長たちとともに、捕囚となって出て行く。

あなたの神が捕囚されたら、あなたはピンチです。それが起こっていました。

…その祭司や首長たちとともに、捕囚となって出て行く。

ーエレミヤ 48:8ー

荒らす者が...

この言葉をもう何度聞いたことでしょうか。「荒らす者 (略奪者)」とは、かなり強い言葉です。つまり、完全かつ絶対的な破壊と略奪です。

ーエレミヤ 48:8ー

荒らす者がすべての町に入って来る。町は一つも逃れられない。谷は滅び失せ、平地は根絶やしにされる。ー主がそう言われるー

訳すと、神がそうおっしゃったので、それで決まりです。さて、この7節には、モアブが最後に苦勞して学ばなければならなかった多くの理由のうち、最初のものが書かれています。それは、自分たちの生産的な繁榮に信賴していることです。さて、これについては少し問題になりそうなので、少し話しておく必要があります。それはあなたが持っているものではなく何があなたを支配しているかです。あなたが所有するものではなく、何があなたを所有しているかです。これは、彼らがどれだけ繁榮していたかということとは関係ありません。土地は豊かで、肥沃でした。このことを間もなく見ていきます。ここはぶどう酒の国で、ぶどうが...つまり、それだけ実りの多い、生産性の高い土地だったということです。彼らはとても繁榮していました。とても裕福でした。この尺度で蓄えた富があるとどうなるのかというと、人はその豊かさに目を向け始めます。その財産に信賴を寄せます。私は長年、主とともに歩んできましたが、このことに関して、非常に興味深い觀察をしてきました。神は、私たちの手に負えないものを託すことはされません。今、私たちは、それを逆境という文脈で使う傾向があります。第一コリント人への手紙 10 章 13 節を本当に言い換えて、このようにまとめます。

「神は、あなたが扱える以上のものを決して与えられない。」

第一コリント人への手紙 10 章 13 節には、「神は、私たちが耐えうる以上の試練や誘惑を与えることはなさない。試練や誘惑とともに、逃れる道を用意してくださるのです。」と書かれています。

繰り返しますが、神は私たちが耐えられないようなことはなさない、という意味です。

なぜか？ なぜなら、もしそんなことをなさったら、私たちの不従順の当事者になってしまうからです。決して、神が私たちの生活の中で、御心に適わない環境を作られるとは想像しないでください。私たちの生活の中で、言葉は悪いですが、私たちを本当に導いてくれるような環境をいつも作ってください。私たちが神の御心に従順になるように。私と一緒に考えてください。これは非常に重要です。もし神があなたに富を託すことができると知っておられ、あなたが富の良い管理人であり、それをどのように投資し、与え、使い、それをどうするかについて誠実であると分かっておられるなら、神はそれをあなたに与えられます。それはどちらにも当てはまります。あなたが信賴に足る人でないなら、神はあなたにそれを与えられないでしょう。なぜなら、もし神がそれをあなたに与えられ、あなたがそれを管理できないなら、神は事実上、あなたの不従順の当事者となるからです。だからこそ、信賴される人はさらに与えられるのです。

なぜなら、多くを与えられた者は、多くを求められるからです。(ルカ 12:48)

ファイナンス・クリスチャン・コンセプトのラリー・バークヘッドは、このように言っています。与える賜物を持った人がいます。それは賜物です。この人たちは、与えることが大好きな人たちです。与える機会を探しています。神は、彼らに、経済的に惜しみなく与える機会を与えられます。私はラリー・バークヘッドの言葉が大好きです。「与える賜物がある人は、得る賜物もある。」

もう一回やってみます。このことを考えてみてください。神は今、与えなければならないのは、神の目は、この地上の隅々まで完全に神に献身する心を探し回っておられるからです。神は神の栄光のために、彼らに代わって強くなることができます。神は誰かを見つけられ、「あの人なら信頼できる」と言われます。これで何をするのかわかるので、安心して任せられるのです。「さあ、どうぞ。」神は得る賜物と共に与える賜物を供給されます。そのポイントがどこにあるのかも知っておられます。私たち全員にとって、賜物は違うものですよね。私たちの中には、宝物や富、この世の富を蓄えることができる人がいます。私たちは、それらのものに支配されなければ、それらのものを手に入れることができます。そして、神はそれらを私たちに託してくださいませ。なぜなら、私たちが神に信頼を置く代わりに、それらに信頼を置くことはないと神はご存じだからです。あの箴言が大好きです。それは非常に...だから、神はユーモアのセンスをお持ちだと分かります。その箴言は、基本的にこんな感じです。

「豊かさに目を奪われてはいけません。富に信頼を置いてはならない。なぜなら、富は必ず翼を生やし、天へ飛び立つからです。」(箴言 23:4,5)

毎月の給料のようにね。まるで蒸発するように、無くなってしまいます。その月が終わる前に、お金が尽きます。そこに信頼を置いてはいけません。自分の富に信頼を置いてはいけません。実は、日曜日にマタイによる福音書 6 章で、そのことについて少しお話する予定です。これは、彼らが自分の財宝や富に信頼を置いていたことが、このような事態を招いた一つの原因です。9 節。

—エレミヤ 48:9—

モアブに翼を与えて、飛び去らせよ。その町々は住む者もなく荒れ果てる。

—エレミヤ 48:10—

主のみわざをおろそかにする者は、のろわれよ。その剣をとどめて血を流さないようにする者は、のろわれよ。

これは少しややこしいです。これは、実は神がバビロンに呪いを宣告するために語っておられます。もしバビロンが、神の裁きをモアブに下す際に、それに従わず、躊躇するようであれば。なぜならバビロン、ネブカドネザル王は、モアブに対する神の裁きの道具なのですから。神は基本的に呪いを宣告しておられます。

「バビロンよ、聞きなさい。誤魔化さず、躊躇なくやりなさい。もしそうするなら、あなた自身に呪いをもたらすことになるからです。

—エレミヤ 48:11—

モアブは若いときから安らかであった。彼はぶどう酒の澂の上によどみ、桶から桶へあけられたこともなく、捕囚として連れて行かれたこともなかった。それゆえ、その味はそのまま残り、香りも変わらなかった。

—エレミヤ 48:12—

それゆえ、見よ、その時代が来る —主のことば—。そのとき、わたしは彼に酒蔵の番人たちを送る。彼らは彼を桶から移し、彼の桶を空にして、壺を砕く。

さて、ここはぶどう酒の産地です。彼らはこのことを理解したでしょう。彼らは、神がこの例えを用いて何を言おうとしておられるのか、よく分かっていたはずですが。また、主の御心なら、日曜日にラオディキアの教会について、黙示録でこのことを見ていきます。神はこのように、彼らが理解できるような例えを用いられます。これは、ぶどう酒造りに関係しています。私はぶどう酒の目利きでもないし、専門家でも

ありませんが、しかし、私はぶどう酒作りについてこれだけは知っています。その日のうちにそのぶどう酒を取り込まなければ、ぶどう酒を瓶から瓶に移し替えて、茎やブドウの皮、葉かすを取り除くために布で濾します。それを続けることでぶどう酒を純化し、上質なぶどう酒に仕上げていました。そうしないと、そのぶどう酒は沈殿して、かすが底に沈み、やがてそのぶどう酒は苦くなります。神が何を言おうとしておられるか分かりますね？

「モアブ、あなたには問題があります。あなたは本当に良くやっています。本当に楽でしたね。桶から桶へと、空っぽになったことがありますね。かすが底に沈んでいますそのまま残っています。あなたは今まで精練されていませんでした。これからあなたを動揺させなければなりません。それは良いことです。桶から桶へと注ぎ、あなたを空っぽにして欲しいはずです。あまり落ち着き過ぎない方が良い。あまり快適過ぎない方がいい。あなたを精練する必要があります。」

イザヤ書では、神は私たちを精練するために苦難の炉を選ばれた、と書いていることを考えます。

...いや、私は苦難の炉で精練されたくありません。しかし、問題はそれだけが純化され、精練される方法だということです。苦難。なぜなら、居心地が良すぎるからです。神は苦しんでいる人を慰められると言われていて、しかし、神は快適に過ごす者を苦しめられます。私たちは神にそうして欲しいはず。神は私たちを十分に愛しておられるからです。私たちはこれを誤解していて、私たちが空っぽになったとき、ひっくり返ったとき、私たちが不安定なとき、この精練過程で苦しんでいるとき、私たちは、神があなたに対して行っていると考えます。違います、神はあなたのためにそうしておられます。神はあなたにこうなされるほどに愛しておられ、もし神があなたを愛しておらず、気に留められないのであれば、「そのままでもいいよ」、となります。「人生のぶどう酒のボトルの底に、かすが沈むようにさせて、苦くなればいい！」そう、まさにそんな感じです。苦い！ 唸るように言わなきゃ。これが快適な自己満足といものなのでしょう。それは繁栄と同居していませんか？調子がいい時は、「やあ、良いね〜！」「楽しんで、腰を据えて、リラックスしていきましょう。良いですね！」「お〜、いや、いや、…あなたを放っておけません。わたしはあなたを精練しなければなりません。あなたを空っぽにしなければなりません。」

私はこの12節にある、神があなたをひっくり返すために、このぶどう酒の番人を送られるという表現があまり好きではありません。神があなたをひっくり返し、倒し、空っぽにされたような、そんな感じです。ただ、あなたの益のためです。次に進む前に、もうひとつ。モアブは若い時から安らかで、彼はそのかすに落ち着いていました。一緒に考えてみてください。安らかな人生。快適な生活。自分に正直になりましょう。快適さを確実にするために、私たちはとことんこだわります。少しでも不快感や不便を感じるもの、私たちは、自分に不快感をもたらすもの、あるいは少しでも不確かな不便さを感じるものは、とことん避けようとしています。不確かなという言葉を使います。私たちは安定したいのです。落ち着きたいです。私は快適さが大好きです。特に...そんな目で見ないで下さい。皆さんだって、そうでしょ。特に年齢を重ねると、そうなりますよね。聞いてください、あなたはただ、ただ…ただ、落ち着いてしまいます。そしてそれに慣れていきます。それが心地よくなります。そうすることによって何が起きているのか、全くわかっていません。A.W.トーマーだったと思いますが、彼だけができるように、つまり、彼はその方法を知っているんです。私はトーマーの文章に愛憎の関係があります。私は、時々デポーションで、トーマーに手を出しては…「おしまいだっ！」投げて、棚に戻すんです。「もういい！ん〜！！」彼が正しいことは分かっていますが、でもそれは、こう言われるのと同じです。「犬の群れに石を投げ入れよ。一番大きな声で吠える犬は、一番大きな打撃を受けた犬だ。」(J.D.牧師挙手)

私はその犬です。彼はパンチするような感じで、「お～、わお...！」彼は、休耕地、硬い地について語っています。「ああ、孤独と沈黙の中で自惚れしている。耕運機はいつも騒がしく、休耕地を壊すために忙しく入ってくるので、決して耕運機が入ってくることを許さない。耕運機が入ってこれば、「私の快適さを壊すというのか!？」その地を崩され、その器が空っぽにされると、私の反応はどうでしょう？ 戦います。私は戦い、蹴り、噛み、引っ掻きます。なぜなら、私は居心地悪くなるのが嫌だからです。落ち着かないのは嫌です。空っぽは嫌です。倒されるのは本当に嫌なんです。起き上がれるか分かりません。だから、私を倒さないでください。ノックダウンしないでください。いや、あなたは倒されなければなりません。神にはご方法があれ、それは聖なる動揺です。安らぎ繁栄の中で、この自己満足に陥らないように。安らぎがある時こそ、慎重になりましょう。ダビデのことを考えます。ダビデは安心しています。そして、致命的な間違いを犯してしまいます。いざという時に、王として戦いに出て行かず、彼はただ、のんびりと過ごすことにしたのです。

「ダビデ、あなたは自分の義務を果たしました。戦いに行く必要はありません。」だから、彼はそこでのんびりと、安らかに、落ち着いています。バテシェバが登場します。あとは歴史が語るとおりです。いや、聖なる動揺があります。ここは戦場であって、遊び場ではありません。のんびりしている暇はありません。注意深くし、油断してはいけません。これが何を指しているか、モアブは理解したでしょう。ラオディキアの教会が、イエスの言われる「生ぬるい水を吐き出す」の意味を正確に理解していたのと同じように。(黙示録 3:16)

なぜなら、それがラオディキアの水資源の現実だったからです。それについては、主の御心なら日曜日にお話しします。神は彼らのいる場所を意味しておられ、

「あなたがたはぶどう酒の生産地にいます。ぶどう酒を精製するとき、どうすればいいかわかるでしょう。かすを残すとどうなるか知っています。それは適切なタイミングでなければなりません。そのかすを長く置いておくと、どうなるか分かりますね。そのぶどう酒がどうなるか知っていますか？ それあなたがたに起こることです。」

その点と点が、とても力強く繋がったことでしょう。13節。

一エレミヤ 48:13一

モアブは、ケモシュのゆえに恥を見る。イスラエルの家が、彼らがより頼むベテルのゆえに恥を見たように。

一エレミヤ 48:14一

どうして、おまえたちは言えるだろうか。『われわれは勇士、戦いの豪の者だ』と。

分かりましたか？ ほ～...これは...こう言えるかもしれません。繁栄、自己満足、自己への自信。

それは、結果的にそうなるのでは？ あなたは繁栄し、裕福で、安らかな生活を送り、贅沢で快適な生活を送っています。それは、「私は無敵だ」というような自信とセットになっていないでしょうか。

「いや、こんなこと自分には起こらないよ。私たちは強く、強く、力強い戦士だ。こんなこと起こらないよ。」14節はなんと修辭的でしょうか。良くそんなことが言えたものです。いつまでも言ってられません。これが語っていることは、私たち自身が、自分の力に頼ってしまう傾向があることを表しています。私たちが資源や富や財宝を手に入れたとき、そこに信頼を置きがちです。それが、私たちの強さと自信の源になります。私たちの自信は、自分が持っているものでも、自分が何者であるかということでもありません。それは、主の中にあるものです。15節。

ーエレミヤ 48:15ー

モアブは”荒らされ”、その町々は襲われて、選り抜きの若者たちが屠り場に下って行く。ーその名を万軍の主という王のことばー

ーエレミヤ 48:16ー

モアブの滅びは近づいた。そのわざわいは速やかにやって来る。

ーエレミヤ 48:17ー

周りの者、その名を知る者はみな、これのために嘆け。(注目ください)『どうして、力ある杖、輝かしい笏が砕かれたのか』と。

おお、待ってください。そんな中で、よくもまあ、自分は強い、力強いと言えたものです。今、彼らは「どうして強い者が砕かれたのか」と言っています。う〜...ここで、私は非常に罪を示されています。よく言われているように、自分自身が最大の敵だからです。自分の力、自分の肉のエネルギーに頼ることで。それがモアブがしたことです。18 節。

ーエレミヤ 48:18ー

ディボンに住む娘よ。栄光の座から降りて、潤いのない地に座れ。モアブを”荒らす者”が、…

この言葉、まだまだ出てきますね。

…おまえのところに攻め上り、おまえの要塞を滅ぼしたからだ。

ーエレミヤ 48:19ー

アロエルに住む女よ。道の傍らに立って見張れ。逃げる男、逃れる女に尋ねて、『何が起こったのか』と言え。

ーエレミヤ 48:20ー

モアブは打ちのめされ、辱められた。泣き叫び、わめけ。アルノンで『モアブは”あらされた”』と告げよ。

彼らは荒らされたという印象を受けますね。彼らは荒らされたからです。

ーエレミヤ 48:21ー

さばきは次の平地に臨んだ。(これらの発音に最善を尽くします) ホロン、ヤハツ、メファアテ、

ーエレミヤ 48:22ー

ディボン、ネボ、ベテ・…

ベテとは、アラビア語で「家」という意味です。

…ベテ・ディブラタイム、

言いやすいです。

ーエレミヤ 48:23ー

キルヤタイム、ベテ・ガムル、ベテ・メオン、

ーエレミヤ 48:24ー

ケリヨテ、ボツラ、モアブの地の遠くの町、近くの町すべてに。

ーエレミヤ 48:25ー

モアブの角は切り落とされ、…

角とは、強さと力の描写です。

…その腕は砕かれた一主のことば。

—エレミヤ 48:26—

彼を酔わせよ。(その理由は?) 主に対して高ぶったからだ。モアブは、へどを吐き、彼も笑いものとなる。

—エレミヤ 48:27—

イスラエルは、おまえにとって笑いものではなかったのか。それとも、おまえが彼のことを語るたびに、彼に向かって頭を振っていたのは、彼が盗人の間に見つけられたためか。

さて、ここで少し背景を知る必要があります。というのも、これは以前、モアブがイスラエルをあざけり、笑い、攻撃し、嘲笑したときのことを引き合いに出しています。今、神はこう言っておられます。

「さあ、これから立場を逆転させて、あなた方を嘲笑の的とする。あなたがたはへどを吐き、彼らに笑われます。」

どうですか? なぜ、このような章が聖書にあるのかという疑問について、この章を読み進める前に答えておきましょう。答えは、非常にシンプルです。なぜなら、神は私たちがこのことから学ぶことを望んでおられるからです。このようなことを繰り返さないようにするために。神は私たちに大変な方法ではなく、簡単な方法で学んでほしいと願っておられます。神はモアブから学んでほしいと思っておられます。私たちがモアブのように、主に対して自分を高ぶらせるとどうなるかを。ちなみに、プライドで嘲ることを、神はとても重く受け止められます。韻を踏んでいます、かなりいい感じですね。つまり、そうですね? それが核心ではないでしょうか? それはプライドです。人が高慢になると、そこから生まれるのは、人を嘲笑することです。自分を高めるために、切り捨て、貶めます。きっと、これをお話する必要があるでしょう。これを言う時、主は私の心をご存じです。妻を見下し、軽蔑するような夫は卑怯者です。その人は傲慢です。恥を知りなさい。心に留め、モアブから教訓を学んでください。プライドで相手を馬鹿にしていると、どうなると思いますか? あなたが、その人になります。嘲笑の的となることです。笑われるのはあなたです。なんだか先走ってしまいました。これは今、モアブがイスラエルを嘲り、軽蔑したことに対する、いわば相互の裁きです。プライドは常に人を嘲笑させます。今、主が思い起させて下さった箴言があります。箴言だと思います。基本的にこんな感じです。この点については、訂正させていただくかもしれません。

「積み重ねてはならない。なぜなら、神はあなたが本当に落ち込んでいる人を笑い、軽蔑し、あざけり、嘲笑し、軽蔑するのを見ておられ、神は手を引かれる。神はそれを非常に重く受け止められる。」

イエスは、泣く人と共に泣き、喜ぶ人と共に喜びなさいと言われました。(ローマ 12:15)

もう一度、自分に正直になりましょう。私自身も含めてです。私たちは時々、泣く人と共に喜びたいと思います。泣いている人、嘆いている人を嘲笑します。そして、神はそのことに目を留めておられます。神はそれを見られ、その人に与えられた懲らしめが何であれ、手を引かれ、緩められます。人々に対してそれを積み重ね、蔑み、嘲り、笑い飛ばすなら、さらに悪いことに、神は懲らしめを彼らからあなたへと向けられます。非常に注意してください。神は深刻に受け止められます。

では、子育てに置き換えて考えてみましょう。誰かがあなたの子どもにこんなことをすれば、ほら、「彼らはどこに住んでるんだ?」言ってみただけです。

「この子はわたしの子だ。わたしの娘だ。わたしの息子だ。わたしの子どもたちだ。この子たちを嘲笑の的とするのか? わたしは心に留めました。承知しました。この章はまだ終わっていない。最終決定権はわたしにある。すべては、あなたが自分を高めたからです。」自分を高めるという意味わかります? 自

分を自分とは違う者のようにより重要で、他の誰よりも優れていると思ひ込むことです。それが自分を高めるといことです。自分を高め、高く保つためには、他の人を低くし続けなければなりません。自分を高め続けるために。そこで、見下す、切り捨てるということが出てきます。従業員を抱える雇用主のことを思い浮かべます。ああ、神はそれに気づいておられます。それに目を留められます。あなたが意地悪をする時...また先走ってしまいました。28節に進みましょうか？ — (笑) — 賜物なんです。

—エレミヤ 48:28—

モアブの住民よ。町を見捨てて岩間に住め。穴の入り口のそばに巣を作る鳩のようになれ。

—エレミヤ 48:29—

われわれはモアブの高ぶりを、聞いた。

さて、補足ですが、ある翻訳ではこう書かれています。

...—彼は実に (極めて) 高ぶる者—

つまり、モアブが高慢だったということだけでなく、それを強調しようと著者は考えているようで、それを誰もが知っており、誰もが聞いていたと。モアブの高慢さについて聞いたことがあり、著者はこの高慢さを強調するために、こう言います。“極めて高ぶる者” “極めて” “極めて”の意味が分かりますか？ 要点は分かりますね？ 分かったと言ってください。あなたの想像を極めて、はるかに、豊かに、超える高ぶり。そして、もっと。さらにもっと。究極に。分かりましたね？ 同義語に注目してください。聞いてください。29節に戻ります。

—エレミヤ 48:29—

われわれはモアブの高ぶりを、—彼は実に高ぶる者— その傲慢、その高ぶりを、その誇り (プライド)、

...

まだ終わってませんよ。

...その慢心を聞いた。

すごい、これでかなりカバーできますね。傲慢、高ぶり、誇り、極めてプライドが高く、高慢。つまり、ほとんど全部がそこにあります。では30節。注目してください。

—エレミヤ 48:30—

わたしは彼の不遜さ (怒り) を知っている。—主のことば— その自慢話は正しくない。その行いも正しくない。

お聞きください。プライドが高いと人を見下すように、心が硬いと相手に辛く当たります。また、このことを語っている箴言がいくつかあります。プライドの高い人は厳しく答えます。お金持ちは意地悪です。厳しく、失礼で、思いやりがない。それは一緒に伴っていて、かなりのリストになります。あえて言うなら、上記のすべては怒りに比例すると思います。興味深いことに、「私たちはモアブの怒りを聞き、私も知っている」と。噂が広まります。噂は広まります。私は、牧師になる前の数年間、非常に裕福で高慢な人たちと知り合う機会がありました。人生で出会った中で最も意地悪な人たちでした。当然ながら、世界は彼らを中心に回っているからです。彼らはただ、ほんの些細なことで… ただただ激怒します。彼らから出て来るのは、ただただ厳しさです。「よくもまあ、私にそんなことを?!」かなりいい感じでしたね。良すぎたかもしれません。「私が誰だか知っているか?!」「実は知りません。すみません、どなたか、この人のことをご存じですか?!」— (笑) — ところで、これはフライトアテンダントのファーストクラスでの実話です。この嫌な奴が...嫌な奴と言ってもいいですか? 言っちゃいましたが。ファーストクラ

スでフライトアテンダントにこう言います。「私が誰だか知っているか?!」そのフライトアテンダントは、…皆さん、これ気に入りますよ。彼女はこう言います。

「いいえ、本当に申し訳ありませんが、私はあなたを知りません。」ファーストクラスとそれ以外を隔てるカーテンがあるじゃないですか。彼女はカーテンを開けて、叫びます。「ねえ、どなたかこの人が誰だか知っていますか?!」良いですね、良いことです。それは神です。そういうことです。

では、31 節です。ここから進まないといけません。これはもう終わらしましょう。

—エレミヤ 48:31—

それゆえ...

さて、ここからが本題で、ここからが面白いところです。

—エレミヤ 48:31—

それゆえ、わたしはモアブのために泣き叫び、モアブ全体のために叫ぶ。人々はキル・ヘレスの人々のために嘆く。

—エレミヤ 48:32—

シブマのぶどうの木よ。わたしはヤゼルの涙にまさり、おまえのために泣く。おまえのつるは伸びて海を越えた。ヤゼルの海に達した。そして、おまえの夏の果物とぶどうの収穫を、荒らす者が襲った。

—エレミヤ 48:33—

モアブの果樹園から、その地から、喜びと楽しみが取り去られる。わたしは石がめから酒を絶えさせた。

...

ぶどう酒は喜びの型です。

...喜びの声をあげてぶどうを踏む者もなく、ぶどう踏みの喜びの声は、もはや喜びの声ではない。

ここで何が起きているか分かりますか？ ここで泣いているのは誰だかわかりますか？ これは、なかなか理解しがたいかもしれませんが、これは神が裁きを受けなければならないこの民のために泣き悲しんでおられるのです。神はこれを望んでおられません。こうしなければならないのです。ここでも、愛する父親、親という文脈で捉えてください。私たちがしつけ、懲らしめるのは、子どもを愛しているからです。ヘブル人への手紙の著者はこう言っています。

「神は愛する者を懲らしめられる。」(ヘブル 12:6)

これによって私たちは、自分が神の子どもであることを知ります。他人の子どもを叱ることはできないからです。子どもを叱るから親なのです。それが神の子どもであることを知る唯一の方法でなければいいたのですが。額をもらえればいいのですが。「私は神の子です」と。だから、私は神の子ですと。あなたが神の子であることをどうやって知ることができるのでしょうか？ お仕置きを受けるとき、それが父親だと分かります。それが彼らの親なる神です。ところで、興味深いのは、主の懲らしめを軽んじてはいけません。なぜ、主の懲らしめを軽んじてはいけないと戒められるのか、分かりますか？ なぜなら、私たちは主の懲らしめを軽んじるからです。軽んじます。それが好きではありません。親としてどれだけの人が「これはあなたより私の方が傷つくことになる」と言ったことでしょうか。私が子どものころの母は、もちろん、彼女がお仕置きするとき...私は絶対に父にお仕置きしてもらいたくありませんでした。父にお仕置きされた時は1週間歩けなかったです。でも、母が私をお仕置きする時は、こんな感じで(泣きながら)、私は「お母さん...?」そして大声で「お〜...!」と言うと、母は止めます。皆さんも同じことしたでしょ。彼女はいつもこう言うんです。「あなたよりも私の方がつらいのよ。」私は「ほんとに?」という

感じます。「あなたを傷つけるより、私をもっと傷つけることになる。」私はこんな感じます。

「お母さん、聞いて、誰もここで傷つく必要はないんだよ。これをするのを止めない？ そしたら誰も傷つかないよ。そうでしょ？」

いいえ、そうはいきません。真面目な話をするのにくだらない例えだとは思いますが、これは、神の心を傷つけます。神が罰を与えることを喜んでおられるとは、決して想像しないでください。墮落した世の親だとしても、私たちは子どもを躱けます。喜びません。二人の息子が小さかった頃を思い出します。彼らにこう言います。

「あなたが信じていることとは逆に、お母さんも私も、朝起きてからこう言っているわけではないんだ。『息子たちを躱けるのが待ちきれない！ 彼らにお仕置きをする最初の機会を狙っている。』」違います。それは彼らが考えることです。というのも、小さいうちはトラブルが絶えないからです。

「ママとパパは、寝る前にきつとこう言っているに違いない。おい、明日の朝はどうする？」
私たちはそれを喜びとしません。そんなことしたくありません。そこから喜びを得ることはありません。実際にはその反対が真実です。私たちは泣き、嘆き、心を痛め、悲しみます。34節。

—エレミヤ 48:34—

ヘシュボンが悲鳴をあげたので、その声はエルアレとヤハツまで、ツォアルからホロナイムやエグラテ・シェリシヤまで届く。ニムリムの水さえ荒廃するからだ。

—エレミヤ 48:35—

わたしはモアブで 一主のことば一 高き所でいけにえを献げる者を、その神々に犠牲を供える者を取り除く。

「なんということですか、モアブの皆さん、どうしたんですか？ プライド、極めてプライドが高く、自分を高め、自分の力や富に信頼を置き、そして今、あなたは偶像礼拝に明け暮れている。私はそんなこと絶対にしません。」

ええ、彼らに厳しく非難する前に、あなたはそうします。これはまだ別の理由です。彼らから学びましょう。偶像礼拝の深刻さ。偶像礼拝とは何でしょうか？

偶像礼拝とは、私たちの愛情、献身、礼拝の対象として、主に取って代わるあらゆるもの、またはあらゆる人のことです。旧約聖書のこのような箇所を、私たちはすぐに排除し、切り離して考えてしまうのではないのでしょうか。特に、偶像礼拝について書かれている箇所は。偶像を作り、それにひれ伏し、犠牲を供えるという絵を、私たちの想像力のキャンバスに描いているからです。モレクです。彼らは生きたまま子どもをモレクの神に捧げる生贄としました。確かにそれは偶像礼拝であり、主に忌み嫌われることです。しかし、自分たちの生活には当てはまらないという御旗のもとに、早々と切り捨ててしまわないようにしましょう。ええ、皆さん、自分の家に偶像はありませんよね？ 私たちの家には、ひれ伏して拝む偶像が棚に置かれていないかもしれませんが。それは、私たちの愛情や献身の対象です。でも、週末に洗車してワックスをかけることはあるかもしれませんね。言ってみただけです。もう一度、正直になりましょう。私たちが主の前で問いかけなければならないのは、このことかもしれません。私の愛情、私の注意、私の時間を奪うものは何か？ 自分が一番考え、一番求めていることは何か？ 自分がすべてを捨てても、一番やりたいこと、打ち込めることは何か？ それが偶像です。

それが何であれ、誰であれ、私たちの愛情、献身、礼拝の対象として、イエスだけが本来いるべき場所を奪ってしまったということです。36節に進む前にもう一つ。何か、あるいは誰か、人である場合もあり

ます。夫、妻であったり、彼氏、彼女でもなり得ます。娘、息子であったり、親、友人でも。趣味や、所有物もなり得ます。

しかし、繰り返しになりますが、私自身も含め、注意してほしいのは、偶像礼拝は非常に巧妙で、陰湿であるということです。聖霊に私たちの心を探っていただき、私たちの人生の中で主に代わって、主にふさわしい場所を奪っているものがないかどうかを見ていただくとよいでしょう。

—エレミヤ 48:36—

それゆえ、わたしの心は、モアブのために笛のように鳴る。わたしの心は、キル・ヘレスの人々のために笛のように鳴る。彼らの得た富も消え失せたからだ。

—エレミヤ 48:37—

実に、彼らは頭の毛をみな剃り、…

待ってください。わお…私は 37 節が好きではありません。—（笑）— これは儀式的なものです。

—エレミヤ 48:37—

実に、彼らは頭の毛をみな剃り、ひげもみな切り取り、手もみな傷つけ、腰に荒布を着けている。

喪に服す時の儀式です。

—エレミヤ 48:38—

モアブのあらゆる屋根の上や広場には、嘆きしかない。わたしがモアブを、だれも欲しがらない器のように砕いたからだ —主のことば—

—エレミヤ 48:39—

どんなにか打ちのめされて、泣き叫ぶことか。どんなにかモアブは恥を見て、背を見せることか。モアブは、その周りのすべての者の笑いものとなり、恐怖のもととなった。」

—エレミヤ 48:40—

まことに、主はこう言われる。「見よ。敵が鷲のように襲いかかり、モアブに対して翼を広げる。

—エレミヤ 48:41—

町々は攻め取られ、要害は取られる。その日、モアブの勇士の心は、産みの苦しみにある女の心のようになる。

わお、なんという描写でしょう。なんという恐れ。あの鷲が舞い降りたときの恐怖。そのイメージです。その日の恐怖は強烈です。彼らは強大な戦士です。この男たちは恐怖のあまり、まるで産みの苦しみを味わう女性のようなのです。

—エレミヤ 48:42—

モアブは滅ぼし尽くされて、民でなくなる。主に対して高ぶったからだ。

彼らは自分を高めただけでなく、主に対して自分を高めました。それは極めて高いプライドから来るものです。あなたは主に対して自分を高めている。私は誰かに対しては、自分を高められますが、主に対しては、…それはやめた方がいい。良い結末にはならないでしょう。それはここ 43 節に表れています。

—エレミヤ 48:43—

モアブの住民よ、おまえを恐怖の落とし穴と罠が襲う。—主のことば—

—エレミヤ 48:44—

その恐怖から逃げる者は穴に落ち、穴から這い上がる者は罠に捕らえられる。わたしがモアブに彼らの刑罰の年を来させるからだ。—主のことば—

逃げることはできても、隠れることはできない。「私は恐怖から逃れました。」あなたは落とし穴に落ちることになります。「私は穴から抜け出しました。」あなたは罠に捕らえられるでしょう。惜しかったですね。逃げることはできても、主から隠れることはできません。ちなみにそれについては、ヨナです。

—エレミヤ 48:45—

ヘシュボンの陰には、逃れる者たちが力尽きて立ち止る。…

私は 45 節を読んだだけで、力尽きます。

…火がヘシュボンから、炎がシホンのうちから出るからだ。それは、モアブのこめかみと、騒がしい子どもの頭の頂を焼く。

—エレミヤ 48:46—

ああ、モアブ。ケモシュの民は滅びる。おまえの息子は捕らわれの身となり、娘は捕虜になって連れ去られるからだ。

そして 47 節です。47 節を主に感謝します。47 節だけならいいのですが。

—エレミヤ 48:47—

しかし終わりの日に、わたしはモアブを回復させる。…

そうして下さるのですか？ このすべての後に？ ええ、ただこのすべての後ではなく、このすべてのゆえに。

…主のことば。」ここまでがモアブへのさばきである。

わお…このような終わり方をする章が好きです。47 節で預言されたモアブの裁きは、将来的には、大変な方法ではありますが、最終的には成功するようです。これが教訓です。だからこそ、この章は私の聖書に載っているのです。なぜなら、考えてみてください。この章やこのような章を読むと、なぜ私に必要なんだろうと思いますよね。しかし、すべての聖句に神の息吹がかかっています。そこには理由があります。神はこの書をさらに多くの章で埋める必要はあられませんでした。ある著者はそうであるように。理由があります。その理由とは？ 私たちが耳を傾け、そこから学ぶためです。私たちの人生に 1 節～46 節が必要ないように。47 節にまっすぐたどり着けるように。私は 47 節が好きです。もう一度読みたいくらいです。読みませんが。そうしたいですが、しません。なぜなら、それは神のあわれみと恵みと愛と優しさと忍耐深さを語っているからです。これは、人々を回復させたいと願っておられる、回復の神です。つまり、すべてが…今、私たちが経験したこと、生き抜いたこと、私たちは生き延び、T シャツを手に入れるでしょう。

「私は 48 章を学び、それを伝えるために生き抜いた」つまり、醜い章なんです。こんな風に言ってもいいですか？ 醜い章です。読むのが困難です。エレミヤ書の 48 章を読んで、「主をほめたたえよう！」と思う人はいないでしょう。違います。「おお、神よ！」「おお、神よ！」おお、神よ、ただ 47 節にたどり着かせてくれませんか？ なぜなら、終わりの時に、あなたは彼らを回復させ、連れ戻されるからです。ああ、彼らはこのすべてを経験しなければならないのですか？「そうです。」私はこのすべてを経験したくありません。「ええ、これをどうぞ。かなり生々しい内容ですが、それを記録して、聖書のページに取め、そこから学べるようにしました。」

分かりました。…ここから学びます。私はこんなこと経験したくありません。初めの 46 節を、私の息子たちにも経験させたくありません。私は子ども達を本当に愛しています。彼らは不必要に苦しむでしょう。完全に避けられたかもしれないのに。ええ、分かりました。分かりました。私は学びました。そうな

りますように。主よ、感謝します。

カポノ、上がって来て下さい。皆さんお立ちください。祈りと歌で締めくくります。

ああ、主よ、おそらく、ここにいる皆さんと同じように、そしてオンラインで見ている皆さんも、これに関して一息つきたいと思っているのではないのでしょうか。これは息をのむものです。

主よ、この世代を経た私たちのために、このことを含めてくださってありがとうございます。私たちはそれを読み、心に留めることが出来ます。主よ、ここから学ぶことのできる教訓に感謝します。プライドの高さは命取りです、主よ。本当に、それは今夜ここで見たものすべての核心でした。ああ、主よ、私たちがあなたに対して高ぶり、自分の力と富を信頼し、その上偶像礼拝をするような者の中に数えられることはありませんように。それはあまりにも酷いことです。主よ、私たちはあなたを愛しています。あなたに感謝します。このことに感謝します。このレッスンに感謝します。これはレッスンです。そして今、私たちはそれを学び、心に留めるためには、聖霊が必要です。主よ、感謝します。あなたを本当に愛しています。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7